

■ 株式会社のご案内 (株主メモ)

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
配当金交付 株主確定日	3月31日 ※なお、中間配当の株主確定日は9月30日
単元株式数	1,000株
定時株主総会	6月下旬
定時株主総会における 権利行使株主確定日	3月31日
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲 1-2-1 みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都中央区八重洲 1-2-1 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部

	証券会社等に口座をお持ちの場合	証券会社等に口座をお持ちでない場合 (特別口座の場合)
郵便物送付先	お取引の証券会社等になります。	〒168-8507 東京都杉並区和泉 2-8-4 みずほ信託銀行 証券代行部
電話お問い合わせ先		フリーダイヤル 0120-288-324 (土・日・祝日を除く 9:00～17:00)
各種手続お取扱店 (住所変更、株主配当金受取り 方法の変更等)		みずほ証券 本店、全国各支店および営業所 プラネットブース(みずほ銀行内の店舗) みずほ信託銀行 本店および全国各支店
未払配当金のお支払	みずほ信託銀行本店および全国各支店、みずほ銀行本店および全国各支店 (みずほ証券では取次のみとなります)	
ご注意	支払明細発行については、右の「特別口座の場合」の郵便物送付先・電話お問い合わせ先・各種手続お取扱店をご利用ください。	単元未満株式の買取以外の株式売買はできません。

公告方法	電子公告の方法により行う http://www.kinugawa-rubber.co.jp
------	--

Kinugawa Rubber Industrial Co., Ltd.

〒263-0005 千葉県稲毛区長沼町330番地 TEL: 043-259-3111 (代表) FAX: 043-259-3380

URL : <http://www.kinugawa-rubber.co.jp/>

スピード・変革・チャレンジ

第75期 第2四半期

株主通信

2013年4月1日～
2013年9月30日



コントロールレバー・ブーツ

用途：車体フロアホールの孔塞ぎ、シフトレバーにぴったりはめ合わせる部品です。

機能：車外からの遮音・水密性向上及びギアシフト時の操作を円滑にします。



私たちのいまをお届けします

日本を代表する自動車用ゴム・樹脂部品メーカーから世界の鬼怒川ゴムへ

2013

拡販目標額: **170** 億円

[2013年度 車輦生産台数増加見込み]

20万台 増見込み



30万台 増見込み



グローバルで拡販・生産拠点増強

グローバル対応への取組み



つまり試行錯誤の無駄を省き、失敗が防げます!

① 拠点・設備立ち上げ

立ち上げ後からスムーズな生産体制をとる事ができます。

国内で熟成された成功マニュアルをグローバルで共有するので

世界同一基準を実現します!

② 新車立ち上げ

同じ仕組みでチェックしながら進める事で時間やコストのロスを無くし効率化を図ります。

③ 拠点運営

後進国と先進国のレベルの差を無くすことができます。

2015

1000 億円企業へ

「Kinugawa Challenge 2015」

2017

真のグローバル企業へ

生産能力のさらなる向上

すべての海外拠点で自主自立を目指します!



[部門別構成比率] 2013年度第2四半期

その他事業 1.2%

その他 8.4%

6.9%

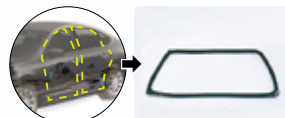
11.8%

17.4%

54.3%

車体シールを中心に新規拡大中!

車体シール



ウェルトボディサイド



ガラスラン



バンパー

ブレーキ・型物部品

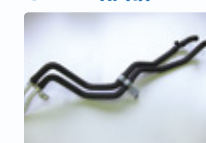


ブレーキカップ



ペダル

ホース部品



ホース

防振部品



エンジンマウント ブッシュ

海外拠点 カーマーメーカーへの拡販活動と自主自立を目指します。



国内拠点 構造改革による業務の効率化を推進します。



株主のみなさまへ



代表取締役社長執行役員

関山 定男

株主のみなさまにおかれましては、日頃より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。さて、第75期第2四半期株主通信をお届けいたします。

2013年第2四半期当社グループ連結業績は、中国地域、アセアン地域の生産増加により対前年同期に比べ増収増益となりました。

また、昨年度は新車の立上げと生産移管が同時期になったことにより米州、アセアンで大きなロスを出しましたが、昨年度末より実施してきた諸施策により順調に回復し黒字に転換する事が出来ました。

現在は、ブラジル、ロシア、鄭州 (中国) の新規拠点の生産準備とインド、インドネシアなどの新規拠点を加えグローバルでの新車立上げ準備も順調に進んでおり2013年度は増収増益の見込みでございます。

あわせて、一昨年度発表しました中期経営計画「Kinugawa Challenge 2015」を軸とした、2015年度売上高1,000億円超、営業利益率12%確保を目標に、今後も世界の自動車メーカーへの販売強化とグローバル拠点戦略を展開し、自動車産業の発展にお役に立てるようグループ一丸となって取り組んでいく所存です。

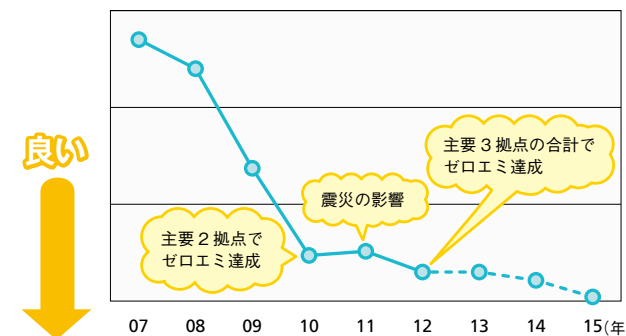
株主のみなさまにおかれましては、今後とも一層のご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

環境への取組み

1990年代から他社に先駆けてゴムから樹脂へ転換を推進しリサイクルを促進しています。また、処分量の削減には、サーマルリサイクルを活用しています。

*サーマルリサイクル：廃棄物を燃料として再利用

最終処分量削減率



2015年度、グローバルゼロエミッション達成を目標に処分量の削減を推進。

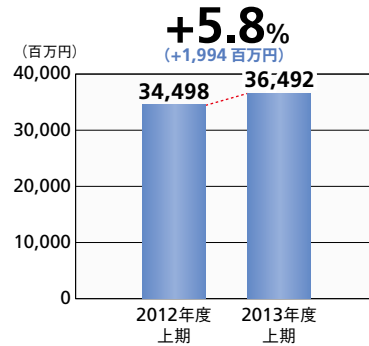
業績の概要

当社の主要得意先の自動車生産は、国内は前年同期比で約1割弱の減少、海外は米州が約1割弱増加したものの海外全体では微増、グローバルでは前年同期並みとなりました。この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は、364億9千2百万円（前年同期比5.8%増）となりました。損益面は、調達資材の現地化・汎用化及びアジ

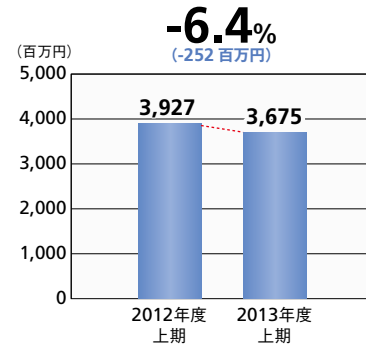
ア・米州でのモノ造り改善活動を継続してきましたが、国内の操業度低下影響、新車立上げに伴う費用などの影響がありました。営業利益は36億7千5百万円（前年同期比6.4%減）、経常利益は為替差益などにより40億4千1百万円（前年同期比2.5%増）、四半期純利益は22億8千4百万円（前年同期比2.6%増）となりました。

損益計算書

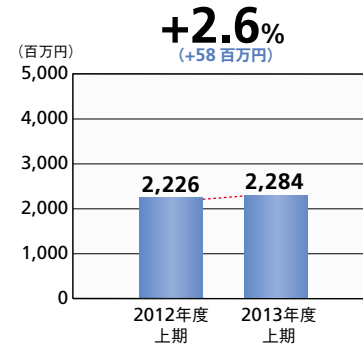
売上高



営業利益

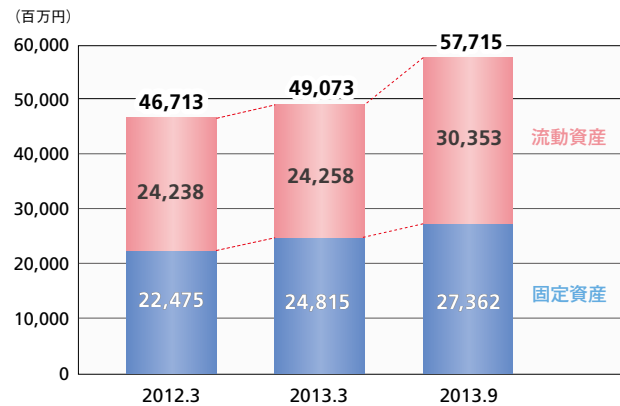


四半期純利益

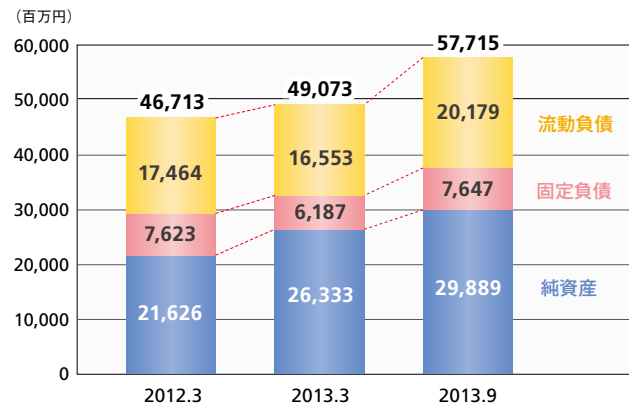


貸借対照表

資産の部

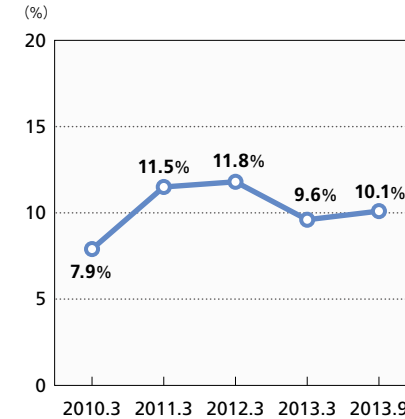


負債・純資産の部

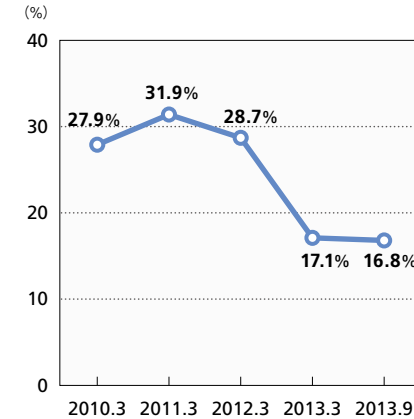


主要経営指標の推移

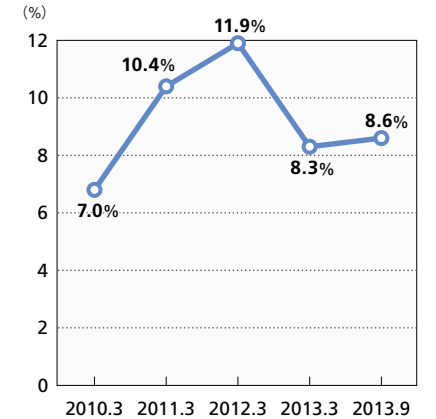
営業利益率



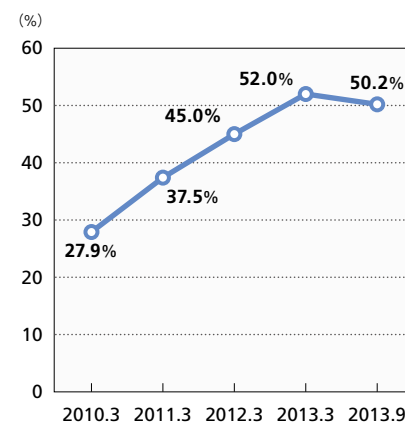
ROE



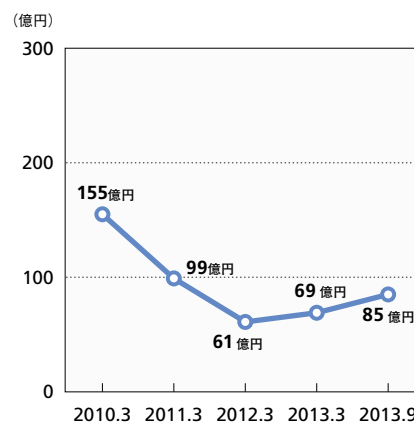
ROA



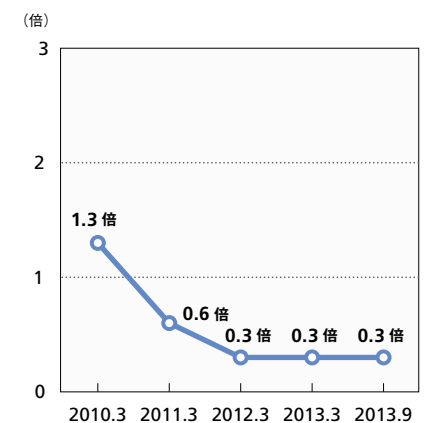
自己資本比率



有利子負債残高



DER



注) 2012年3月期連結会計年度より、在外子会社等の収益及び費用は期中平均相場により円貨に換算する方法に会計方針を変更しております。
(これにより本書における過年度の数値も期中平均相場を適用)

トピックス

2012年度決算説明会

5月24日に、投資家の皆さまを対象に2012年度決算説明会を開催いたしました。当日は、60名の投資家の皆さまが参加されました。



“キヌガワメキシコ”の拡大

メキシコの自動車生産台数増加に対応するために、メキシコでの生産拠点の拡大を行います。従来の車体シール部品に加え、防振部品、ホース部品の生産を行い、米州全土に向けた販売を目指します。防振部品、ホース部品は2014年初旬から生産を行います。



“キヌガワブラジル”設立

米州3番目の新拠点“キヌガワブラジル”（ブラジル、リオデジャネイロ州）に生産会社を設立しました。2014年初旬に、日産サプライヤーパーク内で生産を開始します。主に車体シール部品を押出から成形・仕上げまで一貫で生産を行います。

- ・主要顧客：ブラジル日産
- ・主要製品：車体シール部品
- ・売上目標：20億円（2015年度）



倉庫の削減と納入リードタイムの短縮

2010年より物流構造改革として関東地区倉庫の集約を進めてまいりました。2013年は、子会社（ナリタ合成）における成形～仕上げ・梱包工程の直結化による完成品在庫の削減と生産スペースの削減により納入リードタイムの短縮と外部倉庫（賃借）を廃止しました。

- 改善点**
1. 羽鳥倉庫を閉鎖し納入リードタイム短縮
 2. 製品移動時間ゼロ物流費削減
 3. 梱包作業を集約して人員を削減（6名→2名）
 4. 節を減らし完成品在庫を削減
 5. スペース効率を上げ、ムダなく使用



精練移動倉庫の動かない物を整理・処分し、スペース半減



精練移動倉庫の空いたスペースに3段ラックを設置



金具エリアを縮小し、完成品エリアを確保

“キヌガワロシア”設立

欧州1番目の新拠点“キヌガワロシア”（ロシアウドムルト共和国 イズフェスク）に生産会社を設立しました。2014年中旬に生産を開始します。キヌガワロシアは、主に車体シール部品をサテライト工場として成形・仕上げからの生産を行います。



東北復興支援： インターンシップ（職場体験実習）による地域との交流

近隣の高校生などに、鬼怒川ゴムの生産現場を通じてモノ造りを体験して頂き地域社会との交流を深めています。キヌガワ郡山では、今年3校のインターンシップの皆さんに改善活動等に参加して頂き、モノ造りの楽しさを経験して頂いています。



郡山北高校



二本松工業高校



郡山聳学校

沿革

1939 (昭和14)	鬼怒川護謨工業株式会社創立 (自動車部品その他ゴム製品の製造)
1961 (昭和36)	鬼怒川ゴム工業株式会社に商号変更
1962 (昭和37)	東京証券取引所市場第二部に上場
1964 (昭和39)	本社所在地を千葉市に変更
1971 (昭和46)	栃木県真岡市に工場建設(現(株)キヌガワ防振部品、 (株)キヌガワブレーキ部品) 台湾台北市に 「中光橡膠工業股份有限公司」設立
1977 (昭和52)	大分県中津市に工場建設(現(株)キヌガワ大分)
1978 (昭和53)	東京証券取引所市場第一部上場
1985 (昭和60)	アメリカ テネシー州ウインチェスター市に 「現地法人(現TEPRO)」設立
1992 (平成4)	福島県郡山市に工場建設(現(株)キヌガワ郡山)
1994 (平成6)	中国天津市に合弁会社 「天津星光橡膠有限公司」設立
1996 (平成8)	中国福州市に 「福州福光橡膠有限公司」設立
1999 (平成11)	東洋ゴム工業株式会社と資本・業務提携
2001 (平成13)	タイ アユタヤ県に「キヌガワタイランド」設立 工場部門を分社化
2004 (平成16)	エスイーシー化成株式会社設立
2005 (平成17)	八洲ゴム工業株式会社の経営権取得
2006 (平成18)	福州福光橡膠の花都分工場を独立させ 「鬼怒川橡膠(広州)有限公司」を設立
2007 (平成19)	タイ CPR社を子会社化
2010 (平成22)	メキシコ グァナファト州 イラパト市に 「キヌガワメキシコ」設立 中国 大連市に「鬼怒川(大連)模具開発有限公司」設立 中国安徽省蕪湖市に「鬼怒川橡膠(蕪湖)有限公司」設立
2011 (平成23)	帝都ゴム株式会社を完全子会社化
2012 (平成24)	インドネシア 西ジャワ州に「キヌガワ インドネシア」設立 中国 河南省に「鬼怒川橡膠(鄭州)有限公司」設立 インド チェンナイ市に「キヌガワ インド」設立
2013 (平成25)	ロシア サンクトペテルブルクに「キヌガワロシア」設立 ブラジル サンパウロに「キヌガワブラジル」設立

会社概要

2013年9月30日現在

名称	鬼怒川ゴム工業株式会社 Kinugawa Rubber Industrial Co., Ltd.
証券コード	5196
本社所在地	千葉県千葉市稲毛区長沼町 330 番地 TEL : 043-259-3111
設立年月日	1939年10月1日
資本金	5,654 百万円
主要な事業内容	自動車用ゴム及び 合成樹脂製品の製造・販売
従業員数(連結)	4,105 名
営業所	大阪営業所 大阪府吹田市南金田 2-3-26 ファースト21 803号 TEL : 06-6155-4599

役員体制

役職名	氏名
代表取締役社長執行役員	せきやま きだ お 関山 定男
取締役常務執行役員	よだ のりお 依田 憲雄
取締役常務執行役員	いまばやし いさお 今林 功
取締役常務執行役員	こぐすり じろう 小薬 次郎
監査役	すえまつ けん 末松 謙
監査役(非常勤)	おおき あきら 大木 宣
監査役(非常勤)	やまもと まさひろ 山本 正彦
監査役(非常勤)	みね なおひと 峯 直仁

株式の状況

2013年9月30日現在

発行可能株式総数 160,000,000 株
発行済株式総数 67,299,522 株 (自己株式 71,501 株)
株主数 4,834 名

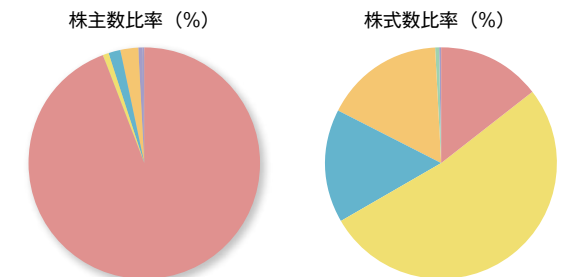
大株主

No	株主名	所有株数	比率
1	みずほ信託銀行株式会社(退職給付信託日産自動車口)	13,626,665	20.27
2	東洋ゴム工業株式会社	8,000,000	11.90
3	日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	6,440,000	9.58
4	日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	2,649,000	3.94
5	GOLDMAN SACHS INTERNATIONAL	1,813,781	2.70
6	日本生命保険相互会社	1,793,400	2.67
7	CBLDN RE FUND 116	1,724,000	2.56
8	株式会社みずほ銀行	1,336,964	1.99
9	野村信託銀行株式会社(投信口)	1,296,000	1.93
10	THE CHASE MANHATTAN BANK . N . A . LONDON SECS LENDING OMNIBUS ACCOUNT	956,000	1.42

(注) 比率は自己株式 71,501 株を控除して計算しております。

所有者別分布状況・所有株数別分布状況

所有者区分	株主数比率 (%)	株式数比率 (%)
個人・その他	94.27	14.55
金融機関	0.85	52.31
その他国内法人	1.72	15.84
外国人	2.40	16.60
証券会社	0.74	0.59
自己名義株式	0.02	0.11



	2009.3	2010.3	2011.3	2012.3	2013.3	2014.3(予)
当期純利益(百万円)	816	2,977	4,467	5,300	3,975	4,500
1株当り当期純利益(円)	12.15	44.35	66.56	79.16	59.13	66.94
1株当り配当金(円)	3	4	5	6	8	8(中間配当4含む)